

未認定9割近くに症状



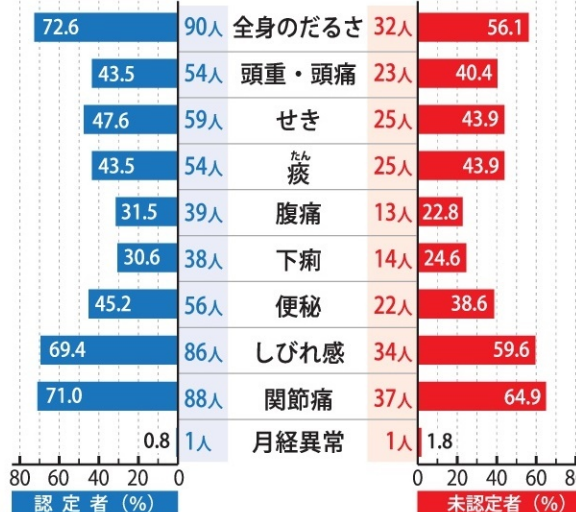
カネミ油症事件を巡り、県は30日、未認定患者の健康実態調査の結果を公表した。回答者の約9割に、頭痛や倦怠感などなんらかの症状があり、また関節痛や全身のだるさ、しびれ感は認定患者と同様、半数以上が抱えていることが分かった。県は、油症認定の診断基準見直しにつながるよう

県が健康実態調査を公表

カネミ油症に関する健康実態調査結果 (県調べ)

	認定者	未認定者
	124人※1	57人※2
症状なし	6人 (4.8%)	7人 (12.3%)
症状あり	118人 (95.2%)	50人 (87.7%)

症状の内訳 (複数回答)



※1 2023年度の油症検診受診者のうち県内在住の認定者

※2 今回の調査で具体的な症状が不記載の人を除き、さらに2023年度油症検診を受けた人(今回の調査対象者や次世代調査の参加者を除く)を加えた数

に研究、検討を重ねることを国に求める方針。県独自の同調査は2009年度以来で、未認定患者の所在と状況を確認し、油症検診の受診呼びかけに生かすことなどが目的。昨年12月、県が把握する県内在住で事件当時は生まれていない次世代は除く未認定158人に調査票を送付した。調査票は、「その他」を含め11の症状について「ある」「ない」を選ぶ方式。回答した52人のうち、症状の記載がない2人を集計から除く一方、昨年度の油症検診を受診した未認定患者のデータを加えた計57人についてまとめた。

関節痛、しびれ、だるさ 半数超

基準見直しへ研究を

57人のうち、なんらかの症状を選んだのは50人(87.7%)。「関節痛」が37人(64.9%)と最も多く、「しびれ感」34人(59.6%)、「全身のだるさ」32人(56.1%)と続く。せきや痰、頭重・頭痛などそれぞれ20人を超えた。県資料では、23年度に油

症検診を受診した認定患者124人のデータと比較。各症状のそれぞれの割合は認定、未認定で類似している。県は「内科的疾患などの自覚症状を有する多くの未認定者が存在することが改めて確認された」とし、より総合的な判断に基づいて認定がされるよう、国に研究、検討を求める。

(内野大司)